

令和元年度
教育委員会活動の点検・評価報告書

知名町教育委員会
令和2年9月

I 点検・評価の概要

1. はじめに

平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、地域住民に対して公表するように義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられている。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員の会議による審議状況や教育委員による調査活動と教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

3. 知名町教育委員会の取組方針

今回で12回目となり、前回平成30年度の点検・評価を踏まえ、同様に評価項目を4段階での数値評価とした。今回は社会教育関係と図書館・公民館関係の3項目とし、今回の評価項目は、教育委員会関係と学校教育関係、学校給食センター関係について、教育長及び教育委員4名による自己点検、自己評価を実施し、評価委員の意見をいただき集約したものを本報告書にまとめ、令和2年9月の第3回議会定例会で報告することとした。

(1) 教育委員会関係では、評価項目を「①教育委員会の会議の運営」「②委員の研修等」「③委員の活動等」の3項目とし、点検評価を行った。

教育委員会の年間をとおした会議、研修、委員活動について、各項目ごとに教育長、主管課長により配付資料等も含め説明、その後の質疑をもとに4段階の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(2) 学校教育関係では、評価項目を「①確かな学力の定着・向上」「②心身の調和のとれた児童生徒の育成」「③特色ある開かれた学校づくり」の3項目とし、点検評価を行った。

各学校の学力の定着・向上対策、具体的実践内容などについて、教育長、課長が関係資料により説明、その後の質疑をもとに同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(3) 知名町立学校給食センター関係では、評価項目を「①栄養のバランスのとれた豊かな学校給食」「②望ましい食習慣を形成する学校給食」「③食物アレルギー対応給食の実施」「④安全な給食の提供」「⑤給食を通じての学校・家庭及び地域との連携」の5項目とし点検評価を行い、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

教育行政評価委員

役 職 等	氏 名
元 教 員	沖 野 富 秀
元町職員	栗 尾 廣 美

II 知名町教育委員会自己点検・評価

1 教育委員会関係

評価項目	評価の観点	評価
① 教育委員会の会議の運営	1 定例会、臨時会の会議は適切に開催されたか。 (回数、時期、日程、議事等) (反省・意見) ○定例会は毎月1回(原則午前10時開会)実施された。臨時会は4回開催された。 ○時期、日程等も行事・出張等の調整を図り定例会の中で話し合っ て決めている。	4.0
	2 資料の事前配布等が適切にされたか。 (反省・意見) ○会議録・議案については事前配付がされ、ゆっくり目を通すこと ができた。 ○議案についても関係資料をできるだけ事前配付し、調査・研究し て審議に臨むよう努めたい。	3.8
	3 議案(報告)等の審議は適切な意見交換がされ、十分審議され たか。 (反省・意見) ○議事の審議は十分に時間をかけて行われ、必要に応じて時間延長 や次回での再検討もあった。	3.8
	4 必要に応じて、報告・連絡・相談及び事前勉強会や相互研修等 がされたか。 (反省・意見) ○教育長の教育行政報告は毎月適切にされており、また、各委員も 学校訪問・行事等への参加を通して状況把握に努め、報告等もされ ている。 ○学校現場や地域における些細な事案についても報告・連絡・相談 により情報共有に努める必要がある。	3.1
	5 委員の意見・提案は施策に反映されたか。 (反省・意見) ○委員と事務局との連携はよくされ、個別の施策についても意見交 換がされ、施策に反映されるよう進められているが、提案された施 策の反映状況について報告が行われ、次の提案に繋げていけるよう にする工夫が必要である。	3.3
	6 会議の公開、広報等は適切にされたか。 (反省・意見) ○会議の公開、広報等については、十分とはいえない。広報ちな又 はホームページを活用して日程を知らせたりするなど工夫が必要 である。 ○会議録の公開請求には、原則公開で臨んでいる。	2.8
② 委員の研修等	1 県、地区、町等の研修への参加が適切にされたか。 (反省・意見) ○県の総会に1名、地区の総会・研修会に3名が参加し、当面する課 題や今後の方向性等について研修することができたが、全員が参加す ることは出来なかった。	2.4

	<p>2 当面する課題に対する研修が適切にされたか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○当面する課題に対する研修の機会はなかったが、日頃から、委員自ら課題等を見つけ、その解決のため研修する機会を設けていくことも必要である。</p>	2.3
③ 委員の活動等	<p>1 教育委員会主催行事、学校行事、各種団体主催行事等への出席は適切にされたか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○全員が教委主催行事や学校行事には出席できている。各種団体行事には都合のつく限り出席するようにしている。</p> <p>○ほとんどの行事に参加することができた。</p>	4.0
	<p>2 各種行事等に対する改善点について、委員の意見・提案がされ、改善等に反映されたか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○定例会で行事に参加しての感想や意見を出し合い、改善点については、校長会や教頭会などに反映させている。</p>	3.3
	<p>3 地域住民、町民等から相談、意見、情報等の提供がされ、適切な対応がされたか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○学校施設の改修等についていくつかの相談・情報等が寄せられ対応してきているが、一部財政的・町の全体施策等の課題により抜本的な解決には至っていないものがある。</p> <p>○地域住民・町民等からの情報を得る工夫が必要である。</p>	3.1
	<p>4 教育委員と町長、社会教育委員、学校長との懇談会は適切になされたか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>○議会の傍聴や学校訪問等で情報を得よう努めている。</p> <p>○町長が主催する総合教育会議については、会議が開催されていないため、意見交換の機会がなかった。</p> <p>○学校長との意見交換は学校訪問の機会などになされているが、社会教育委員との定期的な懇談は課題となっている。</p>	1.9

評価点： 4＝大変よくできた 3＝おおむねよくできた 2＝やや不十分 1＝不十分

2 学校教育関係

評価項目	評価の観点	評価
① 確かな学力の 定着・向上	<p>1 「授業充実の3ポイント」の徹底を図らせているか。 (特に「確かめ・見届け」) (反省・意見)</p> <p>○多くの学校で授業充実の3ポイントを意識した学習が行われている。導入・展開・終末の時間配分を考え、まとめの後に適用問題に取り組みさせることで「確かめ・見届け」の充実を図る姿が見られる。</p>	3.3
	<p>2 一人一研究授業の実践に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○どの学校も授業を中心とした研修を進めている。校内研修や経験者研修など、学校の実態に応じて一人一研究授業に取り組んでいるが、学校、個人によって取組に差がある。</p>	3.3
	<p>3 諸学力検査の結果を踏まえた指導法改善に努めさせ、自己学習力の育成に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○鹿児島学習定着度調査の結果を分析した上で指導法改善に取り組む姿がみられる。中学校では各調査結果を分析し、授業の改善に取り組んでいる。小学校では学力の個人差が大きく、学校での個に応じた指導とともに自己学習においては各家庭の協力が不可欠である。</p>	3.3
	<p>4 「家庭学習60・90運動」の推進を図っているか。 (反省・意見)</p> <p>○各学校の学校評価から60・90運動の定着が見られる。家庭学習強調週間の取組や家庭と連携した生活リズムの確立により家庭学習の習慣化が図られつつある。今後も見届け、継続を行っていくとともに家庭学習の質や内容の向上も図っていく必要がある。</p>	3.1
	<p>5 少人数指導や個に応じた指導の工夫が図られているか。 (反省・意見)</p> <p>○小・中学校における算数科習熟度別指導、個に応じた補充的学習や発展的な学習等、各学校での指導の工夫が図られている。特別教育支援員、学習支援員の指導の効果も期待できる。</p> <p>○住吉小、田皆小、上城小の集合学習や交流学習を組織的・計画的に実施していく必要がある。</p>	3.8
	<p>6 中学校ブロックごとの小中連絡会の充実を図っているか。 (反省・意見)</p> <p>○中学校校区毎に持ち回りの校内研究授業への参加や小学校だけの交流授業、運営委員会の実施等されており、活動は充実していると言える。</p>	3.8
	<p>7 教育懇談会や文化的行事など教育振興に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○知名町人権同和教育講演会及び研修会を開催。 沖永良部弁論・英語暗唱大会、小中学校音楽発表会を開催した。</p>	3.3

② 心身の調和のとれた児童生徒の育成	1 豊かな心を育む道德教育の充実に努めさせているか。 (豊かな体験活動、心のノートの活用) (反省・意見)	3.4
	○各学校において年間計画の作成や全教科を通して道德教育を行う年間計画(別業)を作成し道德の授業に向けて取り組んでいる。多くの学校が道德教育を重点課題の一つとして取り組んでいる。	
	2 心と心のひびき合う生徒指導の充実に努めさせているか。 (共汗と共感、花いっぱい運動) (反省・意見)	3.3
	○学校・学級園、一人一鉢運動の実践による花いっぱい運動、教師、子どもが共に汗する清掃、美化活動、ボランティア作業等の成果が花壇コンクールで評価されている。	
	3 基本的生活習慣の確立のために具体的な実践に努めさせているか。(早寝、早起き、朝ご飯) (反省・意見)	3.1
	○あいさつ、返事、整理整頓、服装などについて各学校が一次徹底事項に挙げて取り組む姿が見られる。継続実践してほしい。 ○歯科検診で、小学校47%、中学校49%の児童生徒のう歯未処置者がいる状況。早めの治療を促す必要がある。	
	4 いじめ、暴力行為、不登校の早期発見と指導の充実に努めさせているか。 (反省・意見)	3.0
○暴力行為等の重大な事件等の発生が見られない。いじめ、不登校傾向の児童生徒もおり、登校指導への取組の継続が必要である。 ○スクールソーシャルワーカーを活用したケース会議、学習支援室の運営充実等を進めていく必要がある。		
5 読書の習慣化を図り、朝読書や年間一人50冊読書推進に努めさせているか。 (反省・意見)	3.1	
○一人50冊の目標を達成している児童生徒は多いものの、個人差も大きく活字離れと思われる児童生徒も少なくない。テレビや情報端末機器でのSNSや動画の視聴時間など家庭内でのルールを守るための啓発が重要である。 ○各学校の読書会の活動も推進され、年々読書量の向上が図られている。		
6 家庭、地域、関係団体との連携を密にし、問題解決及び未然防止に努めさせているか。 (反省・意見)	3.0	
○大きな事故もなく、スクールガードに加え、地域の協力により大きな成果をあげている。 ○民生委員や主任児童委員と連携しながら、問題解決や未然防止に取り組んでいく必要がある。		
7 教科体育を中心に体力・運動能力の向上に努めさせているか。 (一校一運動の推進) (反省・意見)	2.9	
○各学校で「たくましいかごしまっ子育成プラン」に基づき、自校の児童生徒の運動能力の課題を解決するための一校一運動の取組や教科体育の充実に努めている。 ○「チャレンジかごしま」など各学校で取り組み成果も現れているが運動の2極化もあり、肥満等の問題など課題もある。		

	<p>8 保健指導の充実に努めさせているか。 (学校保健全体計画、健康相談、衛生管理、保健委員会等) (反省・意見)</p> <p>○すべての学校で学校保健安全計画の作成ができています。養護教諭研修会では、先生方が意欲的に参加し、内容も充実している。両町養護教諭研修会を開催。栄養教諭を招いて食育の充実について研修を行うことも必要である。</p>	3.8
	<p>9 安全指導の充実に努めさせているか。 (安全意識の高揚、事故防止、安全点検等) (反省・意見)</p> <p>○児童生徒の学校事故や校外での大きな事故の発生はない。安全指導や安全点検等が適切に実施されている成果である。 ○スクールガードを活用し、登下校時の児童生徒の安全を守る体制が整えられている。</p>	3.8
	<p>10 食育についての指導の充実に努めさせているか。 (食に関する全体計画、栄養教諭との連携、栽培活動の充実) (反省・意見)</p> <p>○食に関する指導の年間計画の作成は全校できているが、栄養教諭を活用した授業の実施の際、打合せの時間等の確保に課題がある。偏食、残食の多い学級等もあり、食育の必要性がますます重要となってくる。</p>	2.6
③ 特色ある開かれた学校づくり	<p>1 学校や地域の個性を生かした活動の充実に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○手作り弁当遠足、ホームページ作成、緑の少年団、島唄、三味線、ジャガイモ・さとうきび栽培、米づくり、黒糖づくり等特色ある活動が多くみられる。</p>	3.8
	<p>2 学校評議員や地域人材を活用した活動や学校評価の充実に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○学校評議員会を定期的で開催し、学校評議員の意見を取り入れながら、学校運営を進めている。地域人材は、島ムニ大会や運動会などの場で十分に活用している。今後は、学校応援団や地域学校協働活動の充実に努めていく必要がある。</p>	3.0
	<p>3 幼小中高の連携の強化に努めさせているか。 (反省・意見)</p> <p>○幼小連携は、教育課程に位置付け、交流活動を中心に進められている。今後は認定こども園のアプローチカリキュラムと小学校のスタートカリキュラムの円滑な接続を検討していく必要がある。 ○沖永良部高校の体験入学、リーダー研修会、体育祭などの行事を、中学生が参加しやすい日に実施し、内容の充実が図られている。</p>	3.0

評価点： 4 = 大変よくできた 3 = おおむねよくできた 2 = やや不十分 1 = 不十分

3 知名町立学校給食センター

評価項目	重点目標	令和元年度の実績・成果と課題	評価																																										
<p>① 栄養のバランスのとれた豊かな学校給食</p>	<p>1 栄養価の充足と安心安全な魅力ある美味しい給食の実施</p> <p>(目標) 学校給食実施基準(H25. 1. 31 改正)の充足</p>	<p>(実績)</p> <p>○学校給食実施基準の充足率 (R1: 単位 %)</p> <table border="1" data-bbox="817 443 1265 1137"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エネルギー</td> <td>104.3</td> <td>97.8</td> </tr> <tr> <td>タンパク質</td> <td>111.2</td> <td>105.6</td> </tr> <tr> <td>脂質</td> <td>100</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>ナトリウム</td> <td>112</td> <td>113.3</td> </tr> <tr> <td>カルシウム</td> <td>100.5</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>マグネシウム</td> <td>118.7</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>鉄</td> <td>100</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>亜鉛</td> <td>155</td> <td>123.3</td> </tr> <tr> <td>ビタミンA</td> <td>174.7</td> <td>116.3</td> </tr> <tr> <td>ビタミンB₁</td> <td>177.5</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>ビタミンB₂</td> <td>165</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>ビタミンC</td> <td>150</td> <td>102.8</td> </tr> <tr> <td>食物繊維</td> <td>113</td> <td>103</td> </tr> </tbody> </table> <p>(成果)</p> <p>○学校給食摂取基準(文部科学省)のもと献立作成を行い、栄養価の充足を図ることができた。</p> <p>○学校給食が「生きた教材」として活用できるよう工夫し、教科等との関連した献立作成を行った。</p> <p>○食に関する年間指導計画に基づき、行事食や旬の地元食材等を積極的に取り入れることができた。</p> <p>○生産者グループ「あたらしゃ会」を活用し、「知産知消(地産地消)」に取り組むことができた。</p> <p>○毎年6月を「食育月間」、毎月19日を「食育の日」と設定し、献立予定表やすすく通信等を活用して、学校や家庭へ情報発信を行うことができた。</p> <p>○毎月8のつく日(8日・18日・28日)を「いい歯(8)の日」と設定し、歯の健康に良いとされる食材や噛みごたえのあるメニューを取り入れて噛むことの大切さを意識づけることができた。</p> <p>(課題)</p> <p>●栄養価の充足を図り、特に中学校での過不足となったカルシウム・ナトリウム・マグネシウム・鉄については、献立作成において今後、工夫改善が必要である。</p>		小学校	中学校	エネルギー	104.3	97.8	タンパク質	111.2	105.6	脂質	100	92	ナトリウム	112	113.3	カルシウム	100.5	90	マグネシウム	118.7	80	鉄	100	90	亜鉛	155	123.3	ビタミンA	174.7	116.3	ビタミンB ₁	177.5	172	ビタミンB ₂	165	130	ビタミンC	150	102.8	食物繊維	113	103	<p>3.7</p>
	小学校	中学校																																											
エネルギー	104.3	97.8																																											
タンパク質	111.2	105.6																																											
脂質	100	92																																											
ナトリウム	112	113.3																																											
カルシウム	100.5	90																																											
マグネシウム	118.7	80																																											
鉄	100	90																																											
亜鉛	155	123.3																																											
ビタミンA	174.7	116.3																																											
ビタミンB ₁	177.5	172																																											
ビタミンB ₂	165	130																																											
ビタミンC	150	102.8																																											
食物繊維	113	103																																											

	<p>2 学校給食を通して学校・家庭・地域との連携</p>	<p>(実 績)</p> <p>○地域に伝わる郷土料理や郷土のお菓子、また地元の食材を活用した料理を積極的に取り入れることができた。</p> <p>○地元の食材を活用するに当たって、すくすく通信を活用し、生産者を写真とともに紹介した。</p> <p>○学校や地域の方々の給食センター見学を積極的に受け入れを行ったことにより、地域に根ざした給食センターとして広く紹介することができた。</p> <p>○ふれあい給食において、調理員と児童生徒との交流を行うことができた。</p> <p>○児童生徒が育て、収穫したジャガイモを学校給食に活用し、献立予定表やすくすく通信、放送原稿等で紹介した。</p> <p>○和泊町・与論町と連携し、与論の特産品であるサメやモズク、また、沖永良部の特産品であるきくらげを使った「三町仲良し献立」を実施した。</p> <p>(成 果)</p> <p>○郷土料理や郷土のお菓子を味わうことで、食や地域の食材について興味関心を高めることができた。</p> <p>○生産者の顔が見えることにより、より地元の食材や地域を身近に感じることができ、郷土を愛する心の育成につながった。</p> <p>○調理員と共に給食を食べたり、話を聞いたりすることで、給食に携わる人々への感謝の気持ちが生まれた。</p> <p>(課 題)</p> <p>●生産者の高齢化や生産者グループの人員減少により、納入食材の品目減少が目立つ。新規生産者の参加や定例会の在り方を検討する必要がある。</p>	<p>3.6</p>
	<p>3 セレクト給食やリクエスト給食を通して、食品を知り、自分で選ぶ楽しさを味わうことのできる給食の提供</p>	<p>(実 績)</p> <p>○年2回のセレクト給食、年1回のリクエスト給食を前年度の反省を踏まえ、規模や内容を変更して実施した。</p> <p>(成 果)</p> <p>○選択したり、給食について考えたりすることで、児童生徒の給食への興味関心が高まり、目的をもって給食を食べることにつながった。</p>	<p>3.6</p>

<p>② 望ましい食習慣を形成する学校給食</p>	<p>1 食に関する指導を通じて、食べることの大切さを伝え、日常の生活に生かすことができる、能力や態度の育成 (目 標) 各学級へ食に関する指導等を年1回以上行う。</p>	<p>(実 績) ○担任の先生との TT により、特別活動や教科等で食に関する指導を実施した。 ○給食指導時間等を活用し、給食指導を行った。 (成 果) ○発達段階に合わせた TT による指導により、栄養教諭の専門性を最大限生かした食に関する指導を行うことができ、行動の変容が見られた。</p>	<p>3.4</p>
<p>③ 食物アレルギー対応食の実施</p>	<p>1 食物アレルギー対応食の実施について、文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応指針」にもとづいた一貫性のある対応の実施</p>	<p>(実 績) ○「学校における食物アレルギー対応指針」にもとづき、アレルギーを有する児童生徒の保護者及び学校との連携を図り、適切な対応を行うことができた。 ○【食物アレルギーを有する児童生徒の対応状況】 21 品目 【対象児童生徒】 小学校 13 名 (教諭 2 名含む) 中学校 13 名 (教諭 4 名含む) (成 果) ○アレルギー対応委員会等を通して、組織として取り組むことができた。 (課 題) ●和泊町やこども園と連携し、島内一貫したアレルギー対応マニュアルを作成する必要がある。</p>	<p>3.6</p>
<p>④ 安全安心な給食の提供</p>	<p>1 衛生管理の徹底</p>	<p>(実 績) ○長期休業期間を利用し、衛生管理研修を実施した。鹿児島県衛生管理研修会への参加。(令和元年度調理員 2 名) ○衛生管理マニュアルの見直しを行った。給食センターの新施設・設備に合わせたマニュアルの作成。 (成 果) ○調理員の衛生管理に対する意識の向上が見られた。</p>	<p>3.7</p>

	<p>2 食品及び調理場内の衛生管理の徹底</p> <p>(目 標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品検査年 2 回 ・水質検査 (毎日調理前後) ・清掃・消毒検査 (毎日) ・鼠、害虫等防除 (学期毎) ・ふき取り検査 (毎月) 	<p>(実 績)</p> <p>○学校薬剤師による年 1 回の定期検査を実施した。</p> <p>○食品検査等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品検査 年 2 回 ・水質検査 毎日調理前中後 ・清掃・消毒検査 毎日 ・鼠、害虫等防除 学期毎 ・調理場等環境衛生 毎日 ・ふき取り検査 毎月 <p>(一般生細菌・大腸菌群・サルモネラ菌・黄色ブドウ球菌)</p> <p>(成 果)</p> <p>○食品及び衛生検査の結果、基準値を満たしていた。</p> <p>○学校給食衛生管理基準を遵守し、検査結果を日々の衛生管理に活用しつつ、衛生管理の徹底を図ることができた。</p> <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調理員の衛生管理の理解度に差があるため、危機管理の意識が低い従事者に対し、個別的な指導が必要である。 ●衛生管理責任者の指示に従わない場合の対処について、個別的な指導が必要である。 	3.5
	<p>3 事前ミーティング・朝礼の実施</p>	<p>(成 果)</p> <p>○ミーティングで調理員の発表を取り入れたことにより、主体的に取り組むことができた。また振り返りや見直しができ、次回の調理につながった。</p> <p>○朝礼を取り入れたことにより、ミーティング内容の確認や急な変更についての連絡ができ、スムーズな運営につながった。</p>	3.6
<p>⑤ 給食を通じての学校・家庭及び地域との連携</p>	<p>1 施設見学や給食試食会等の積極的な受け入れ</p>	<p>(実 績)</p> <p>○施設見学・試食会等の実施 試食会年間 11 回実施</p> <p>(成 果)</p> <p>○保護者の試食アンケートより、試食を通じて、学校での給食の様子や、献立内容及び食事の大切さについて、理解してもらうことができた。</p>	3.6
	<p>2 家庭への情報発</p>	<p>(実 績)</p>	3.7

	<p>信 (目 標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食献立予定表及び食育だよりの発刊 (月 1 回) ・すくすく通信の提供 	<p>○給食献立予定表および食育だよりの発行 毎月 1 回 (成 果)</p> <p>○給食や食に関する内容について家庭への情報発信を行い、家族で活用できるようした。毎月の発行を楽しみにしており、食への興味関心が高まったようである。</p>	
	<p>3 給食センター、学校及びPTAとの意見交換を行い、連携を深める。 (目 標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※運営委員会の開催 (年 2 回) ※給食担当者会議の開催 (年 2 回) 	<p>(実 績)</p> <p>○各会議を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※運営委員会 4 回 ※給食担当者会議 2 回 <p>(成 果)</p> <p>○給食センターの情報を提供することができた。今後も意見交換の場を設け、円滑な給食運営が図れるよう働きかけたい。</p>	3.6

Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

1 教育委員会関係について

(1) 教育委員会の会議の運営について

定例会、臨時会の開催が行事・出張等との調整を図り適切に実施されている。議案等についての資料を事前に配付し、事前研究をして会議に臨み、十分な意見交換ができるように努めていることは基本的な事であり、更に充実させていただきたい。

町教育委員会の施策等については、広報「ちな」やホームページを利用して積極的に、町内外に広報していただきたい。そして、開かれた教育委員会制度の確立に積極的に取り組み、教育行政に関心のある町民からの声や要望に対応できる様な態勢は確立しておく必要がある。また、「教育・文化の町」として、多くの町民に教育委員会の活動について、「どのような方法で関心を持たせていくか」が課せられた大きな課題である。

(2) 委員の研修等について

県市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会と大島地区市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会が毎年度開催されているが、元年度においては全委員の出席には至っていない。日程調整等を早めに行う等、全委員が出席できるよう工夫をする必要がある。委員各々が得た情報等について、委員相互による意見交換が行われ、現状把握・共通理解が図られている。また、当面する課題や教育改革の動向等について研修を深めている事は、職務遂行上から有効なことである。

(3) 委員の活動等について

教育委員の活動内容の主たるものは、毎月の定例教育委員会での議事や協議事項の審議及び報告等である。町教育委員会の重点施策への各学校の取り組み状況と成果を把握する場として、学校行事として実施されている入学式、卒業式等の儀式的行事、運動会、体育大会、記録大会等の体育的行事、学習発表会、文化祭等の文化的行事と多岐にわたる行事へ積極的に出席して児童生徒や教職員の活動を直に見て、後日感想、意見を出し合い改善に資している事はよいことである。また、教育委員としての立場上から、各種団体の主催する行事への案内も多いが、できるだけ都合をつけて出席している。町民や地域住民、保護者等からの要望、相談、意見等を収集して、改善・解決に向けて誠心誠意努力する事は大切な事である。今後とも、迅速な課題解決に取り組んでもらいたい。

教育委員がいろいろな催しなどの場で、町長、学校長、社会教育委員と言葉を交わす機会はあるかと思いますが、お互いに多忙な中でも時間、場所を設定して、教育関係の課題等について懇談をする事は意義深いと思いますので、定期的な開催実現に努めていただきたい。

2 学校教育関係について

(1) 確かな学力の定着・向上について

「主体的・対話的で深い学び」の授業実現に向けて研修が進められている。その目標達成のための取組として、各学校では「授業充実の3ポイント」の徹底、一人一研究授業の実践、学力調査の結果を踏まえた指導法改善、「家庭学習 60・90 運動」の推進、少人数指導や個に応じた指導の工夫、中学校ブロックでの研究授業の実践、文化的行事等が着実に進められている。こうした取組により、中学校では、各学力調査を細かく分析し、共通理解を図りながら研修が進められ、学力向上のため指導法改善に取り組んでいる。一方、小学校では、個に応じた指導が行われているが、自己学習力をつけるためには家庭の協力が不可欠であり、学力の個人差も大きい状態である。小・中学校の実態調査結果からは、「家庭学習 60・90 運動」が定着し、家庭学習強調週間の取組や家庭と連携した生活リズムの確立により、家庭学習の習慣化が図られつつある。

鹿児島学習定着度調査結果から、教科や学年により低い通過率も見られるので更なる取組が必要であり、日々の授業改善や「かごしま学力向上支援 Web システム」、デジタル教科書の活用等で確かな学力の定着・向上が図られることを切に望みたい。

(2) 心身の調和のとれた児童生徒の育成

豊かな心を育む道德教育の充実として、全教科を通じて道德教育を行う年間計画を作成し、議論する道德の授業に向けた取組が行われている。一人一鉢運動の実践による花いっぱい運動、教師、子どもが共に汗する清掃、美化活動、ボランティア作業等の取組が良くなってきている。また、基本的生活習慣の確立のための一事徹底事項の設定ができており、あいさつ、返事、整理整頓、服装などで成果が見られる一方、う歯未処置者が半数近くおり、各家庭に歯磨き習慣の徹底や早期治療を促す取り組みが必要である。朝読書や年間一人50冊読書の推進、長期休業中の警察等との連携による愛のパトロール、登下校の交通指導、校区内安全マップの見直し等が推進され健全育成に成果が見られている。なお、いじめ、不登校傾向の児童生徒もいるので、学校と家庭と連携した取組の継続が必要である。

教科体育の充実については、各学校で「たくましいかごしまっ子育成プラン」に基づき体力・運動能力の向上に取り組んでいるが、肥満等の問題など課題もある。学校保健全体計画による保健指導、安全指導が適切になされており命にかかわるような事故も無く、子どもたちが安心して学校生活を楽しく過ごしている事は評価に値する。

食育についての指導も計画的に進められており、家庭との協力もよくなされているが、残食の多い学級等もあることから、栄養教諭や家庭との連携を図り改善に向けて取り組んでいただきたい。

(3) 特色ある学校づくりについて

学校や地域の個性を生かした活動が進められ、どの学校でも郷土芸能の伝承に努めていることは素晴らしいことである。学校で、島唄・三味線等を指導して、その成果を学習発表会・文化祭・島唄島ムニ大会等で発表して保護者や多くの町民から好評を博している。保護者や地域と一体となった郷土芸能の伝承活動を期待したい。

また、ホームページでは最新の情報を発信しており、地域の特性を活かしたジャガイモ・サトウキビ栽培、米づくり、黒糖づくり等の体験活動も評価に値する。さらには、緑の少年団、空き缶拾い、ボランティア活動等の素晴らしい活動も継続していただきたい。しかしながら、今なお道路には菓子袋や空き缶等が落ちているのが目に付くので、ポイ捨てはしないように意識化して環境美化の面からも町全体で取り組む必要がある。

3 町立学校給食センター関係について

(1) 栄養のバランスのとれた豊かな学校給食について

栄養のバランスのとれた豊かな学校給食にするために、文部科学省学校給食実施基準をもとに栄養のバランスのとれた献立により、ほとんどの項目で基準を満たしているが、中学校で3項目充足できなかった項目があり、工夫、改善に取り組むこととしている。行事食、郷土料理、旬の地元食材を使った料理を献立に取り入れたり、児童・生徒が栽培したジャガイモを活用することにより、地域の産物や郷土料理に興味をもたせるよう工夫し、毎年6月を「食育月間」、毎月19日を「食育の日」に設定して献立作成するなど学校給食が「生きた教材」となるよう努めている。また、年2回のセレクト給食を通して食品の特徴を知り選ぶ能力を養う取り組みなどが行われている。

小・中学校の9年間の給食は、児童生徒の成長の重要な部分を担っており、安全・安心で魅力的な学校給食提供の取り組みが行われていることを評価したい。

(2) 望ましい食習慣を形成する学校給食について

望ましい食習慣を形成するために、栄養教諭の専門性を活かした食育指導が各学校で行われている。こうした食育指導を通じて、食べることの大切さを児童・生徒に伝えることは、望ましい食習慣を形成するうえで有効な取り組みであり、今後とも続けていただきたい。

(3) 食物アレルギー対応給食について

食物アレルギーを持つ子供達に対して、学校及び保護者と連携し一人ひとりの健

康状態や個人差を把握した適切な食物アレルギー対応食が実施されている。また、指針に基づき学校とのアレルギー対応が一本化されている。

(4) 安全な給食の提供について

安全な給食を提供するために、全調理員に対し衛生研修会を実施し、食中毒と感染症の特徴や衛生管理基準、健康管理、手洗い方法等調理従事者としての衛生管理の基本的事項を理解させている事は大変重要な事である。また、食品及び調理場内の衛生管理を徹底するために、食品検査、水質検査、清掃・消毒検査、鼠・害虫の防除、ふきとり検査が計画的に実施され、いずれも基準値を満たしている。

令和元年8月に完成した新学校給食センターには衛生管理面に優れたドライシステムが導入され、「学校給食衛生管理基準」に基づいた食品の検収・保管、調理・配送を実施するなどの衛生管理体制を整え、安全な給食の提供が行われていることを評価したい。

(5) 給食を通じての学校・家庭及び地域との連携について

給食を通じての学校・家庭及び地域との連携を図る取り組みとして、施設見学・給食試食会の実施、給食献立表・給食だよりの発行、ホームページを通しての食育の情報提供等素晴らしい取り組みが行われている。また、運営委員会や給食担当者会を開催して運営上の問題点や学校、保護者からの要望、反省点等について意見交換して改善に努められている。

[総評]

令和元年度に実施された教育委員会関係、学校教育関係、学校給食センター関係の各分野における事務事業の実施内容と成果や反省点についての説明を受け、評価項目ごとの評価結果等を踏まえて評価委員としての意見をまとめた。各点検項目についての達成目標が設定されており、常に活動状況を把握しながら問題点を洗い出し改善に向けた取り組みがなされていることを評価したい。

事務事業の改善にあたっては、短期間でできるものと長い時間かかるものがあると思われるが、今回の自己評価及び成果と反省点・課題等を踏まえ、今後に残されている課題への取り組みが計画的に推進され、着実な成果が得られる事を期待したい。